

郷土資料の収集

続郷土研究入門講座 第十講

石井 左 近

資料と博物館

郷土資料と一口にいっても、その系統種別は多岐多様である。郷土を中心に史蹟名所・天然記念物から、美術工芸品・文書記録・写真拓本類から人物に関するもの、芸能・民謡に民俗に関するものなど、郷土の人文的自然的の有形無形を問わず、総べてを対象として大小もろさず資料となるものは収集に努めねばならない。その資料の収集には、私の場合は郷土博物館を経営しているからでもある。

郷土博物館といえば、多くの場合は郷土を中心として、博物館の目的達成のため必要な資料は、総べてを収集する総合博物館である。郷土特殊の専門的資料を扱う博物館もある。私は常に資料の収集に心掛けている、自から収集に当ったり、また知人や業者に依頼しておいたり、購入は勿論で寄贈を受ける場合も多いのでその方法は種々

である。

資料の借入や委託品の展示は、私のところでは現在の場合行っておらない、というのも借入展示には充分の設備がないのと、特に委託の展示品には責任が持てないと思うので希望者があっても創建当初から行わない。

寄贈と購入

郷土の美術工芸品とか、民芸品などの多くは購入している。民俗資料の使い古びたものや、不用品や埋蔵文化財の一部を寄贈されることが非常に多い、民俗資料も物によつては技術者に製作を依頼することもある。庶民生活の安価な物だと安易に考えたり、取扱うことは禁物である。私のところの博物館は、神社の社会的活動の一環として創設したので、私の家が歴代世襲の社家であるためか、寄贈する人が多くに思われる。この場合に寄贈の申出の品が破損していても、同類のものが有っても気持よく受け入れるのがよい。殊に民俗資料は同類のものが多ければ多いほど展示価値が高くなるのである。

購入の場合は所有者から直接は買わない方針である。売って欲しくても口に出さな

いが、但し本人から買って呉れと頼まれば、少々高くとも買うことがある。業者にすゝめられた品で大して入用でなくとも、今後の入手の方便として購入する場合もある。

資料台帳と収集記録

収集品名・材質・数量・収集場所・年月日・所有者・採集・製作・購入・寄贈など記帳し、台帳の外に収集記録ともいうべきものがあつて、特徴・形態・価格・収集品の伝記説話など詳細に記録することが望ましい。また無形の資料の収集については、伝説・昔話・民謡・方言等々は、録音して置くことも必要だが、無形の資料採取には、話者や唄手踊子・音頭取りなどの聞き手は、必ず素直に終りまで聞くべきで、途中で質問めいたことをすると、折角の資料も逃げたり隠れたりする。民俗資料調査でも最初は何んなことを尋ねるか、警戒し肩書に恐縮し遠慮することもあるから、土地に信頼のある人の案内が最も効果が大いのである。土地に応じて気軽に親しみ易くなるように工夫すべきである。資料を誘い出す雰囲気をつくることを考慮して出向くのがよいであろう。

また台帳に記載する数量である、例えば貝塚遺物の貝類や土器・石器・骨器など一々分類して個々別々の数を記載するか、貝類〇箱、土器破片〇箱などとするかである。古墳の出土品についても同じことが言える場合があると思う。台帳に一箱・一連・一把などと総括的の記載をするのは簡便ではあるが、保管上からは責任が軽く紛失の恐れもある。また資料の貸出場合は非常に面倒であるが、私のところの博物館は古考学資料が比較的に多いにかゝらず、現在はなお整理が出来ずに、いわゆる一箱式であって、或る時は貸出して失敗したこともある。

展示と保管と整理

展示するにも保管するにも、季節と天候に留意して、乾燥のためヒビを生じ光沢を失うとか、湿気のためカビとか虫害がないか、窓による通風採光の関係を工夫して、資料の保存法に留意せねばならない。また油断をすると鼠害も予め共通した注意点である。展示室でも収蔵庫でも建設するときに、湿気や換気に充分の配慮が必要である。

なお展示するには資料の種類と場所と方

法によって、見易く、記憶し易く、ヒントを得易く、資料価値を高むべく効果的工夫が肝要である。また小事のようであるが展示の場所と方法によっては、観覧者の多数により炭酸ガスや、電灯の照射による、色彩物の変色にも心を配るがよいのである。

展示するにも保管するにも、物件の底辺が安定か不安定かに注意し、適當の工夫をして安全を期すべきである。例えば先年の越前岬海底地震の時は、敦賀地方は震動五の強いものであったが、私は予め土器など不安定と思われるものには、底の大小に応じて太細の紐で輪を作って載せていた関係でか、小形のもので輪を用いなかつたものの中で、二個が転落しその下に置いてあったもの一個と三個が破損しただけで、全く奇蹟的で却って私の書棚の陳列箱の扉の片方が開いて、焼物の一部が転落破損し惜しいことをしたことがある。また資料の保管場所は一々種類を区別して、混同せぬように整理し貸出しや、展示替が容易ならしめて置かねばならない。

資料の破損した時は速に修理するのが賢明である。器物の場合はどんな小さい破片でも集めて接着するか、専門家に依頼する

ことである、貴重な資料は素人細工は禁物である。資料が寄贈されると直に展示したのは、情誼であり良心的で、私は一度も展示せずに納蔵して置いてはと思ひ、場狭のところへ無理に展示するので系統もなく、全く雑居の状態で陳列法としてはゼロであるが、増築までは今のところ止むを得ないのである。

資料を借りるもの貸すもの

博物館・美術館など相互が資料の貸借は大いに奨励すべきで、貸したものも心配がないが、私の経験では学校や役所の依頼で、文化祭や記念行事に貸出して、失敗したことは数回にとゞまらないので過言ではないのである。

貴重な文化財や郷土資料は、種別に応じその取扱方を一通り心得たものが取扱つてほしい。こういうことには教養も経験も少ない、生徒に任せきりでは、取扱の粗暴や荷造り運搬の不備と不注意である。役所でも学校と同じことが言えるので、片付ける時に帰りを急ぐ為めや、取扱方の心得がない為めに、自分には気付かぬことに失態を起していることもある。大切な資料を借りるには、一人の責任者を定めて万全を期すべ

きであり、貸したものは返還されたら面倒でも、速に元の如く整理して置くことが肝要である。

参 考 書

- 博物館学入門 社団法人 日本博物館協会編
 博物館学綱要 榎橋源太郎著
 博物館資料分類の調査研究 社団法人 日本博物館協会編
 欧米の博物館事情 日本ユネスコ国内委員会編
 郷土教育講演集 文部省普通学務局編